

平成 25 年度 地域支え合い体制づくり検討委員会 議事録

日時 平成 26 年 3 月 18 日（火） 13 時 00 分～14 時 20 分

場所 日進市民会館 2 階会議室

出席者 宮脇 利明 保健医療機関等の関係者

森 道成 保健医療機関等の関係者

（副委員長）

五十里 明 学識経験を有する者

（委員長）

鬼頭 信男 民生児童委員

武田 千恵 民生児童委員

青山 陽 社会福祉協議会

数井 美津子 福祉・介護関係機関の職員

石井 好恵 福祉・介護関係機関の職員

矢野 昭子 商工関係者

宮村 實晴 公募による市民

浅野 鴻一郎 公募による市民

欠席者 金山 和広 保健医療機関等の関係者

山田 政夫 地域住民組織の関係者

鈴木 義尊 地域住民組織の関係者

田村 悟志 行政関係機関の職員

傍聴の可否 可

傍聴の有無 有 1 名

事務局 加藤利秋（福祉部長）、市川学（高齢福祉課長）、川本賀津三（高齢福祉課主幹）、菅野英子（課長補佐）、水谷大介（主査）

配布資料 次第、名簿、設置要綱  
資料 地域支え合い体制づくり事業でめざすもの

事務局 それでは、地域支え合い体制づくり検討委員会を始めさせていただきます。  
議事に入る前に配布資料のご確認をさせていただきます。

<資料の確認>

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

- 1 あいさつ 部長あいさつ
- 2 委員委嘱
- 3 委員自己紹介
- 4 部会長・副部会長の選出

委員長は推薦により、五十里委員が選任  
副委員長は、副委員長より森委員に指名

- 5 議題 地域支え合い体制づくり検討委員会の取り組みについて
- 事務局 資料に基づき説明
- 委員長 今回の事務局の説明で何かご質問やご意見はございますか。
- 委員 地域支え合い体制づくりモデル事業で、サンコムネットはどのような事業を行ったのか。
- 事務局 高齢者の見守り事業として「ニッシーブログ村」の立ち上げと高齢者を対象にしたブログ作成のためのパソコン講習の開催を実施して頂きました。  
今も継続して事業を実施してもらっています。
- 委員長 社会福祉法人ポレポレの実施した事業もあわせてご報告をお願いします。
- 事務局 ポレポレは、地域でお好み焼きや野菜等を引き売りし、高齢者や障害者の方の見守り活動事業を実施して頂きました。事業を立ち上げるための、引き売りに使うためのリヤカーや看板等に補助をしましたが、今もエリアを広げ継続して事業を実施して頂いております。
- 委員 これまで、認知症の方の支援のために色々な事業を市が進めているが、これまで続けてきた事業をどのように継続しているか。例えば認知症に関する研修会を開催し、その後、研究会などの組織が立ち上がっているのか？また、地域にどのように働きかけて行ったのか？
- 委員 地域包括支援センターに話を聞いたところ、認知症サポーター養成講座の開催は開催回数が減ってきている。認知症に対して意識のある方は講座の開催を依頼するが、まだまだ広がっていない。地域で協力してくれる人への働きかけも重要で、そのための根回しが必要になってくるという意見だった。
- 委員 これまでの地域支え合い体制づくりについて、地域でいい事例があれば聞かせてほしい。事業をつみあげて何か残ったか？市が地域にみえる関係者を巻き込んでほしい。そのために、人材が必要になってくる。
- 委員 市には声が届いてないが、社会福祉協議会が把握している部分がある。各地域は区や自治会単位で活動しており、災害時や高齢者の見守り体制などの構築も

進めている。地域のみなさんはその意識はあるが、市が入っていくには単位が大きすぎる地域もあるので、もう少し小さな単位で、出来ればモデル的に関わることが出来たらいいと感じている。

委員 私は、区とか自治会の組織では活動を進めるのに限界があると感じている。自主的な活動のほうが動きやすいし、助け合いにも参加しやすいので、せめてこの会議の中では、既存の組織を使って何かを進めるというこれまでの視点を変えたほうがいいと感じている。

委員 地域福祉計画の関係で、小学校区ごとに地域座談会が開催されそこに参加した。自分の理想とする社会は、向こう三軒両隣で助け合いができる社会ではあるが、個人情報の問題や外との関わりを嫌がる人がいるなど、社会がそのように機能するようになればいいと思っているが、難しいと感じている。

委員 自分の経験では、困っているほど人を寄せ付けないバリアを感じる。普通のボランティアは、バリアがあっても踏み込んでいくことができる。踏み込んでいくには勇気が必要であるので、既存の組織の方々では難しい。

委員 民生児童委員には、お世話になりたくないと感じている方がみえる。

委員 昔は確かにそのようなイメージを持つ方がみえたが、今は活動の内容も変わってきているのでみなさんの意識も変わっていると思う。

委員長 さきほどの認知症サポーターに関して、当初の国の目標としている養成人数が達成し、事業が終わってしまった感じがある。認知症サポーターは、全ての方に受けてもらいたい。  
また、認知症対策がまさに地域包括ケアの中心となるので、今まで市がやってきた成果をどこに入れていくか、認知症対策は地域の大きな課題でもある。大府市の認知症介護・研修大府センターのメインテーマも認知症対策と聞いている。他の市町でも重要な課題と捉えている。  
これまでの委員の方々のお話で、地区にある組織では限界があるとのことだが、新しく区を立ち上げて、そこで区長の経験をされた委員に何かご意見があれば伺いたい。

委員 過去に自治会を通じて集会有り、認知症サポーター養成講座を開催したが、開催しただけでその後の活動につながらなかった。継続的な働きかけが必要と感じている。  
向こう三軒両隣の方からの支援は必要で、三重県志摩市では小地域でのふれあい活動を行っているとのことなので、そこを参考にして今の体制でいいのか検討して頂きたい。

高齢の住民の方からごみを集積場に持っていけないので、自宅前に置けないかとの相談があり、区長会で市に確認したが、予算上で難しいとの回答で対応して頂けなかった。地域で近所の方に手伝ってもらおう仕組みもないので困る。

委員長 地域包括ケアシステムの検討は、今まで難しかったことをこの機会にどう変えるかが大切である。

地域包括ケアシステムの構築で、医療と介護との連携が必要となってくるが、これまで接点があまりなく、医療側と介護側で言葉が通じないと感じている。医療、介護、生活支援サービスがある生活スタイルの構築について、国をあげて進めていくことになる。各市町でどのように進めて行くか検討が必要になってくる。今後は、国は在宅支援の推進に向かっている。

委員 この委員会の目的は、資料にある地域包括ケアシステムの構築の取り組みについて検討する会議なのか？

事務局 地域包括ケアシステムは取り組みを始めている。在宅医療と介護との連携については、医師会との調整を始めている。

認知症施策の推進については、国の認知症施策 5 年計画に基づき、取り組みを進める必要がある。第 6 期介護保険事業計画に盛り込んでいくことになり、認知症ケアパスの作成や認知症カフェの開催など、これまでやってきた事業を含め新しい事業の検討を行っていく予定である。

生活支援サービスの充実・強化と介護予防の推進について、検討が進んでいないので、この会で検討して頂き、次期の介護保険事業計画に盛り込んでいきたい。

委員 地域ケア会議は別にあるのか？

事務局 地域包括支援センターが主体で開催していく会議で、個別ケースの検討から地域の課題を抽出し、施策につなげていく目的で開催するもので、市と地域包括支援センターで会議の方針等を検討することを始めている。

委員 地域包括ケアシステムの構築について、どれくらいの規模で想定されているのか。

事務局 本市は、日常生活圏域である地域包括支援センターのエリアごとで想定している。

委員 先日厚生労働省の方の話をお聞きしたが、地域で出来ることは地域でやってほしいと話していた。必要ならどこにでも説明に行きますとのことで、住民の方にこれからは頑張ってもらいたいと言われた。

- 委員 今のお話で、いかに住民が活動できる仕組みを作ることが必要と思う。例えば、支え合いネットワーク協力員を市が養成し、人的なネットワーク体制を作るなど、人材育成していく必要がある。区や自治会などの役員のように1年で交代する方は難しく、組織を作っても機能しないとだめだと思う。
- この会議を出る前に民生児童委員の方にお聞きしたが、民生委員をサポートする人が必要かどうかお伺いしたところ、必要ないとの回答だった。
- 委員 地域の実情把握は必要と感じており、民生児童委員として相談を受けたケースについて必要があれば、地域包括支援センターなどにつなげるなどの対応をしている。また、区には区議員がいて相談体制ができていますので、ケースバイケースになるかも知れないが今の体制で対応している。
- 委員長 市内でも地域性があると感じている。全国でも地域の形態は様々で、県内で地域包括ケアのモデル事業を数箇所で行っていると聞いているが、それぞれ内容が異なるかと思う。
- このシステムは、岡山県にある中核病院で始まり、基幹病院型として機能させた。地域の中で強いものをいかすというやり方になるが、進め方は色々あるので、枠を決めずに進めることが大切である。
- 昔NHK番組で、「ご近所の底力」という番組があったが、地域の問題を地域で解決するという内容だった。一律でおこなっても無理であるが、地域の特性を生かしていくことが重要である。
- 委員 初めての参加で分からないが、来年度以降の会議では明確に議題や目標を決めて検討をお願いしたい。
- 事務局 平成26年度は2回～3回開催し、1回目は在宅支援サービスの充実について、2回目は介護予防の推進についてご意見を伺う予定です。
- 3回目に2つの意見を取りまとめて提言としてご提出いただき、第6期の介護保険事業計画に盛り込んでいきます。
- 委員長 在宅支援サービスと介護予防とあわせて認知症施策も含めて検討し、地域包括ケア全体の検討も行っていきたい。
- 委員 医療と介護との連携について、自分も専門職として顔の見える関係が作れていないと感じている。ご近所同士でそのような関係を構築するのはさらに難しいと思う。自発的にやりたくなるような仕組みが必要と感じている。選ばれた推進委員のような方が、研修を受けて専門的な知識を身に付けて、地域のために推進していくというやり方もいいのではないかと思う。

- 委員 民生児童委員をやっているが、認知症の方の進行は早いと感じている。相談を受けると地域包括支援センターに橋渡しをしている。  
先日、お困りの高齢者がみえたが、ヘルパーの手配をお願いしたら早くやって頂けて、後日その方を訪問したところ顔つきが明るくなっていた。  
向こう三軒両隣の方の支援は必要で、目が届かないところの情報がもらえる環境づくりが必要と感じている。
- 委員 商工会の会員で高齢でも頑張っている方がみえる。認知症になった方が身近にいるが、進行が早い。最初は自分も受け入れが難しかったが、認知症の方は、接し方や対応で随分違ってくるので、ここでのお話でも勉強させてもらった。
- 委員 在宅支援サービスの多様なサービスの構築検討とは何か？
- 事務局 国の法改正で変わる要支援1・2の通所介護と訪問介護で、サービスが市町村事業に移行するので、その内容を検討するものになります。
- 委員長 今日の会議で、市の抱えている問題についてご意見が出た。  
その他で事務局から何かございますか？
- 事務局 次回の会議は26年7月頃に開催し、2,3回開催し意見をいただきます。  
検討いただきたい案件があれば追加で行います。
- 委員 日程調整と資料の作成は早めをお願いしたい。
- 委員長 時間が来たのでこれで終了します。  
ありがとうございました。

(14時20分終了)